

レンガ舗装施工上の注意

- ・ 目地砂が落ち着くまでは、一部のレンガが多少ぐらつく事がありますが、すぐに安定します。
- ・ 焼き物のため、多少の誤差がありますので、目地幅を調節しながら施工してください。
- ・ 歩道用の路盤構造の場合に、車両乗り入れは不陸の原因となりますので避けてください。
- ・ 施工中・施工後・降雨後にヘアーマーク（細かい網目模様）が出ることがありますが、クラックとは異なり使用を通じて消滅します。
- ・ スコップ等、金属類で叩くと割れる場合がありますので、あて板等で養生の上、作業してください。
- ・ 造園工事の際は、かならずシート養生してください。黒土やモルタル等で万一汚した場合は、すみやかに清水または希塩酸で清掃してください。

積レンガ、レンガタイルの注意

1.白華

コンクリート、モルタル、レンガ、石材の表面が白く粉を吹いたように、或いは目地部分から白いものが流れ出た跡のような現象。（efflorescence：エフロレッセンス）原因：科学的に安定していない塩類が水分の動き等に伴い、仕上げ材料の表面に移動して結晶化する。原因となる塩類はセメント中のカルシウム等の他、低温焼成レンガ中のナトリウム等がある。

2.凍害

材料内部に入った水分が凍結し、その体積膨張によって材料損傷するもの。レンガ・タイルでは吸収率・飽和係数・気孔径及び分布状態・材料強度・吸収速度等に関連する。JISA5209の-20℃～+20℃の10サイクル凍結融解法とJISA1435の凍結融解法が規定されている。一般的にはレンガタイルで3%程度以下の吸収率のものが良いとされ、レンガでは飽和係数0.85以下で吸収率12%以下のものが良好とされている。

3.塩害

材料が吸い込んだ海水中の硫酸基（SO₄）が結晶化する際の体積膨張で、材料を損傷させる。海岸近傍の海水飛散区域に発生し易い。抵抗性は耐凍結融解性能に類似する。レンガの場合は表面がポップアウト状になるケースがある。

4.虹彩

虹彩現象とは、油がにじんだように虹色に光って見える現象である。特に窯変色レンガに多く発生し、施工後同時に発生するケースが多く見られる。いわばこれは窯変色レンガの特性であり、この特性を十分にご理解下さい。

◎白華現象について

白華とは、水に溶けたアルカリ成分が乾いてレンガの表面に白く結晶として残り、構造物の美観を著しく害する現象をいいます。
白華の成分は、主としてセメント成分であるクリンカー鉱物の石膏やアルカリが水と反応してできる可溶性のアルカリ塩（カリ・ソーダ類）やカルシウムの炭酸塩が主成分となっています。

◎白華の除去

1. アルカリ性塩類の白華は、ブラシで表面を完全にこすり、水をかけて塩類を溶かし除去します。
2. 炭酸カルシウム・硫酸カルシウムなどは、できるだけ表面をぬらし、塩酸：水（1：100）または酢酸：水（20：100）などの弱酸で洗い、次にアンモニアなどの水溶液で洗い、その後水洗いし除去します。